

平成27年度 学校評価計画

徳島県立ひのみね支援学校

| | | |
|---------------|--|-------------|
| 徳島県教育 基本目標 | 『とくしまの教育力を結集し、未来を創造する、たくましい人づくり』 ～県民とともに考え、ともに育むオンリーワン教育の実現～ | |
| 学校経営 基本方針 | 「三つの保障」「二つの指導」「一つの約束」 三つの保障：「学習の保障」、「安全の保障」、「人権の保障」 二つの指導：「人間性」と「専門性」の融合、「規律と礼節」 一つの約束：「地域や保護者に開かれた学校」 | |
| 本校の 教育目標 | 「徳島県教育振興計画」に基づき、児童生徒一人一人の個性と人権を尊重し、自立と社会参加の促進に向けて、自己実現に努める心豊かな人間を育成する。 | |
| 本年度の 重点目標 | 自立と社会参加の促進に向けて、3つの「I」を三位一体で推進する。 1 ICF（国際生活機能分類）の理念に基づく障がい児の理解と啓発の推進 一人一人の児童生徒の実態を把握し、具体的な指導内容を設定する。そして、キャリア教育プログラムの推進を図る。 2 ICT（情報通信技術）の推進による外部の専門家を活用した授業改善 授業の中でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、児童生徒の学力向上につなげていく。 3 ISO（新学校版環境ISO）の推進を通じたESD（持続可能な開発のための教育）への取組 ESD（Education for Sustainable Development）に取り組む中で、他者・社会・自然環境とつながり、かかわる力を育成する。 | |
| | 平成27年度末総合評価 | 平成27年度末総合評価 |
| | | 次年度への課題 |

| 重点目標 1 ICF（国際生活機能分類）の理念に基づく障がい児の理解と啓発の推進 | | | | | |
|---|--|--|---|----------|---------|
| 自己評価 | | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題 |
| 重点課題 | 重点目標 | 活動計画と評価指標 | 評価 | 学校関係者の意見 | 今後の改善方策 |
| ○自立と社会参加の基盤となるコミュニケーションについて、一人一人の児童生徒に育った力や課題を明らかにし、個別の指導計画がら、教員が指導方針や方向性を共通理解しやすくなる。 | ○教員間の共通理解を図りながら、コミュニケーション力を育て、生活の中で活用させる。 [I 類型] ・困った時など、必要なことや自分の意思を伝えるコミュニケーション力を育てる。 [II～IV 類型] ・一人一人の児童生徒に応じたコミュニケーション力を育てる。 | <p><活動計画></p> <p>①全児童生徒について学期に1回ケース会を実施し、教員間の共通理解を図る。</p> <p>②コミュニケーションに関する指導や支援機器等の研修を年3回以上行う。</p> <p>③コミュニケーションに関する実践について、学部会で年3回以上情報交換を行う。</p> <p>④個別の指導計画のコミュニケーションに関する目標設定の妥当性を高める研修を、学部主事やワーキンググループを対象に実施する。</p> <p><評価指標></p> <p>①各児童生徒のコミュニケーションに関する個別の指導計画の目標で「目標に十分達した」、「目標に達した」という評価を80%以上得る。</p> <p>②学部主事やワーキンググループの教員の90%以上が、児童生徒のコミュニケーションに関する目標設定や評価について、妥当性を高めることができた」と回答する。</p> | <p><活動計画の実施状況></p> <p>総合評価</p> <p><評定></p> <p>-----</p> <p><所見></p> | | |
| | | | <p><評価指標の達成度></p> | | |

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：全く達成できなかった

| 重点目標 2 ICT（情報通信技術）の推進による外部の専門家を活用した授業改善 | | | | | |
|--|-----------------------------|--|-------------|-------------------------------|---------|
| 自己評価 | | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題 |
| 重点課題 | 重点目標 | 活動計画と評価指標 | 評価 | 学校関係者の意見 | 今後の改善方策 |
| ○ ICT機器を授業で活用したいと考えている教員が多いものの、実際に活用に至るまで至っているとは言い難い。（昨年度評価より） ○ 児童生徒の実態把握としてOAKプログラムを活用してみたいという声が上がっている。（昨年度研修会より） | ○ ICT機器の積極的な活用を推進し、授業改善を図る。 | <活動計画> ① OAKプログラムを活用した、児童生徒の実態把握についての研修・事例発表等を年間3回以上実施する。 ② eラーニング等を利用し、ICT活用に関する自己研修を年間3回以上行いその活用法について考察する機会を設ける。 ③ 授業への活用を推進し、活用事例を5件以上データベース化する。 <評価指標> ① 研修・事例発表を3回以上実施する。 ② 自己研修を年間3回以上実施する。 ③ 事例を5件以上データベース化する。 | <活動計画の実施状況> | 総合評価 <評定> ----- <所見> | |
| | | | <評価指標の達成度> | | |

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：全く達成できなかった

| 重点目標3 ISO（新学校版環境ISO）の推進を通じたESD（持続可能な開発のための教育）への取組 | | | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題 |
|---|---|---|---|------|----------|---------|
| 重点課題 | 重点目標 | 自己評価 | | 総合評価 | 学校関係者の意見 | 今後の改善方策 |
| | | 活動計画と評価指標 | 評価 | | | |
| ○新学校版環境ISOの活動を推進する必要がある。 | ①新学校版環境ISOの活動の推進と見直しを実施する。 ②保護者と連携した活動を充実させる。 ③地域と協力した校内環境づくり | <p><活動計画></p> <p>①-1 新学校版環境ISO推進委員会を実施し、計画や活動内容について確認・協議する。</p> <p>①-2 管理職による内部評価を実施する。</p> <p>②-1 ペットボトルのキャップ集めのリサイクル運動を、保護者と連携して実施する。</p> <p>②-2 学校周辺のゴミ拾いの活動を集まりやすい時間に設定し、児童生徒・保護者・教職員が協力して実施する。</p> <p>③ みなと高等学園の生徒と本校生徒が協力して花を植える等の校内環境整備を実施する。</p> | <p><活動計画の実施状況></p> <p><評定></p> <p>-----</p> <p><所見></p> | | | |
| | | <p><評価指標></p> <p>①-1 新学校版環境ISO推進委員会を学期に1回実施し、計画や活動内容について確認・協議する。</p> <p>①-2 管理職による内部評価を年2回（9月・2月）実施する。</p> <p>②-1 ペットボトルのキャップ集めのリサイクル運動で、毎月5Kg以上を回収する。</p> <p>②-2 学校周辺のゴミ拾いの活動を各学部で年2回以上、児童生徒・保護者・教職員が協力して実施する。</p> <p>③ みなと高等学園の生徒と校内環境整備を年2回以上実施する。</p> | <p><評価指標の達成度></p> | | | |

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：全く達成できなかった